

近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所
資 料 配 布

配 布 日 時	平成16年10月29日(金) 10時00分
------------	--------------------------

件 名	非洪水期における大滝ダムの運用 について(お知らせ)
-----	-------------------------------

取り扱い	_____
------	-------

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 五條市政記者クラブ
------	------------------------------------

問合せ先	国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所 管理課長 齋藤 信彦 白屋地区地すべり対策室長 三上 章 電 話 : 07472-5-3013
------	---

非洪水期における大滝ダムの運用について

大滝ダムは、本来、ダムの最低利用水位である標高271mから標高323mまでのダムの容量を利用し、紀の川の洪水防御、都市用水の供給及び電力の供給を目的としています。

ところが、平成15年4月、白屋地区において亀裂が発生し、平成15年10月24日からは、地すべりに対する措置として貯水位を自然流下で最も低下させることができる標高258mまで下げ、地すべり対策工事を早急に実施すべく取り組んでいるところです。

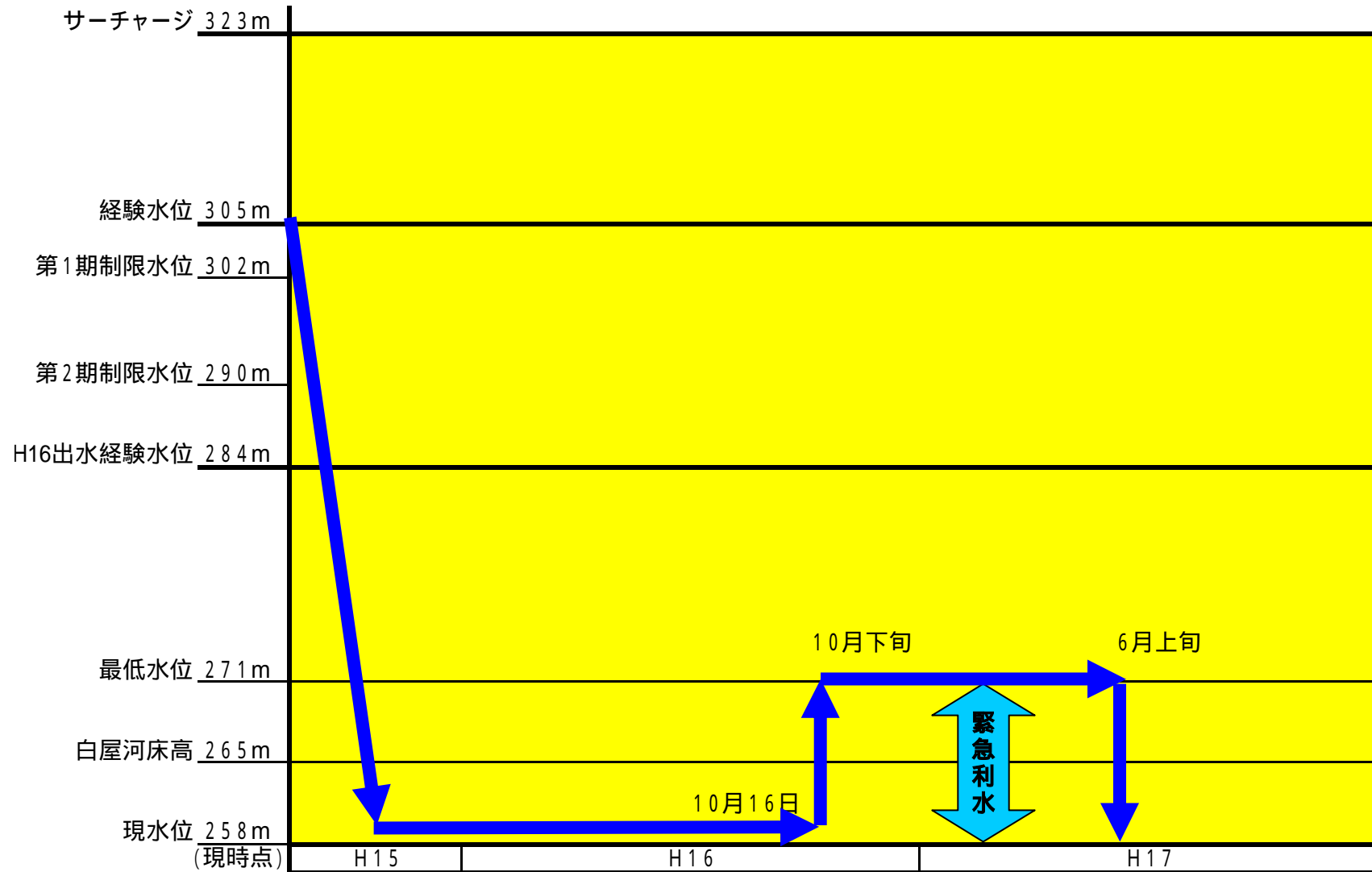
一方、白屋地区の地すべり対策には相当の期間が見込まれており、関係利水者等から大滝ダムによる暫定的な効果の発揮を強く望まれております。

このような状況を踏まえ、台風24号が10月26日12時に温帯低気圧になり、かつ、大雨の恐れがなくなったため、本日(10月29日)から翌年6月15日までの間における大滝ダムの運用として、地すべりの安定性、地すべり対策工事に影響を与えない範囲として、貯水位をおおむねダムの最低利用水位である標高271mまで上昇させることとします。

このことにより約470万m³の緊急備蓄水量が確保でき、異常渇水時には緊急用水の補給も可能となります。また、貯水位が上昇することから電力の供給も可能となります。

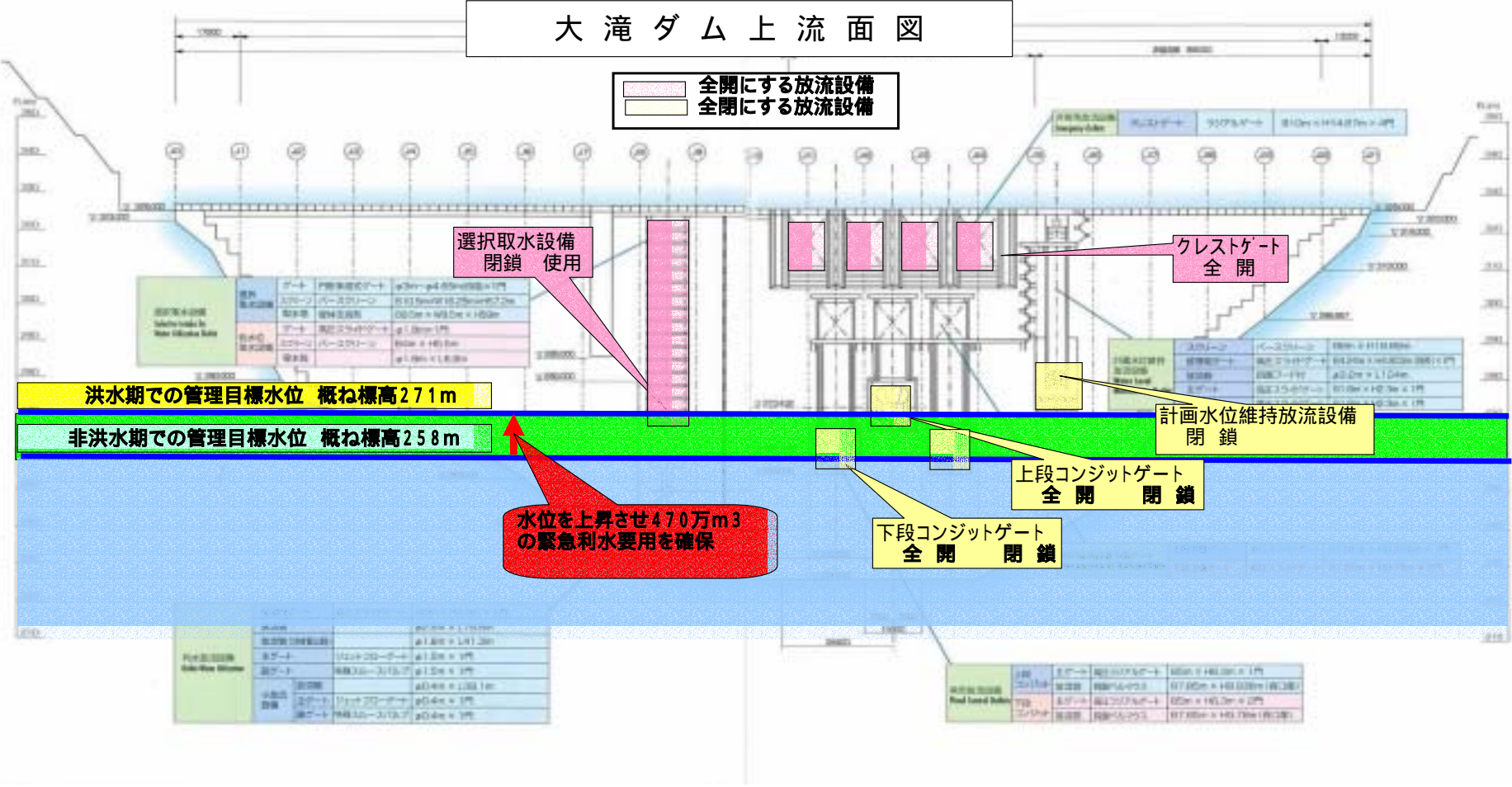
なお、おおむね標高271mで管理した場合において、非洪水期間中の既往最大の出水にみまわれたとしても、今年の水出により一時的に上昇した貯水位(おおむね標高284m)まで上昇しません。また、今年の水出による貯水位の上昇による地すべりへの影響はありませんでした。

非洪水期における大滝ダム運用イメージ



大滝ダム上流面図

全開にする放流設備
 全閉にする放流設備



選択取水設備
閉鎖 使用

クレストゲート
全開

洪水期での管理目標水位 概ね標高271m

非洪水期での管理目標水位 概ね標高258m

水位を上昇させ470万m³
の緊急利水要用を確保

計画水位維持放流設備
閉鎖

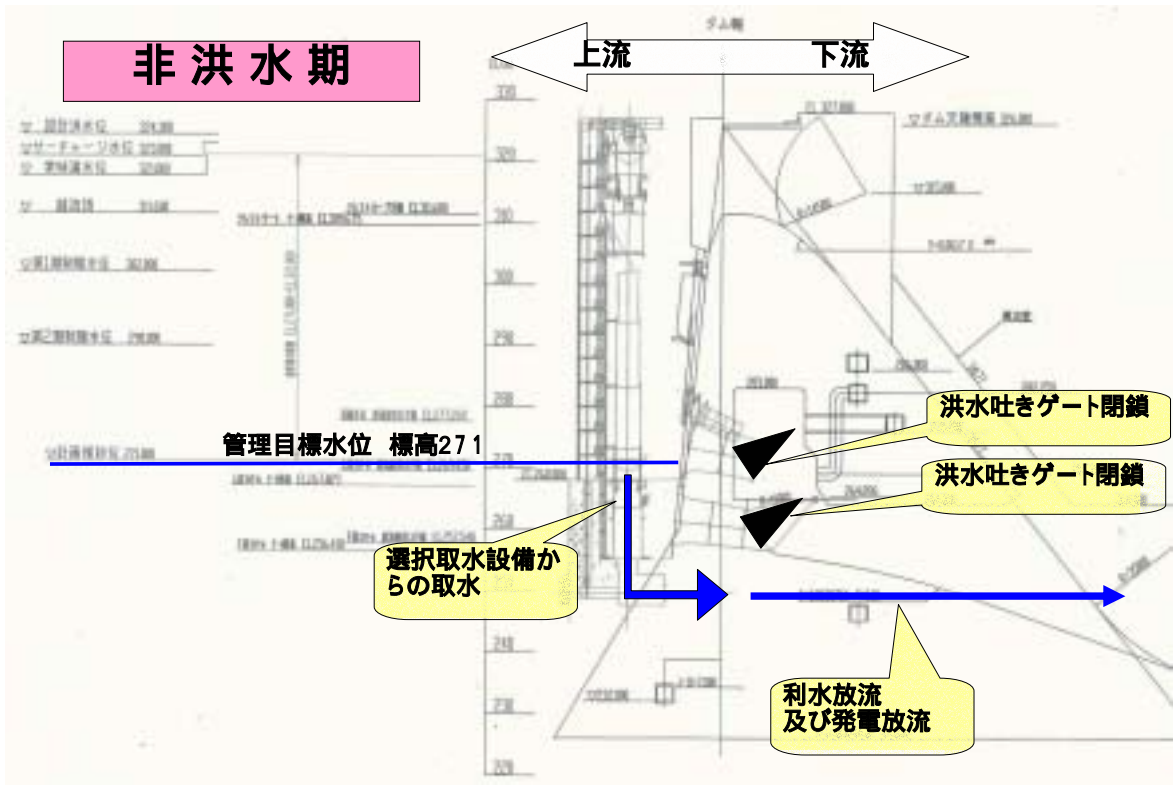
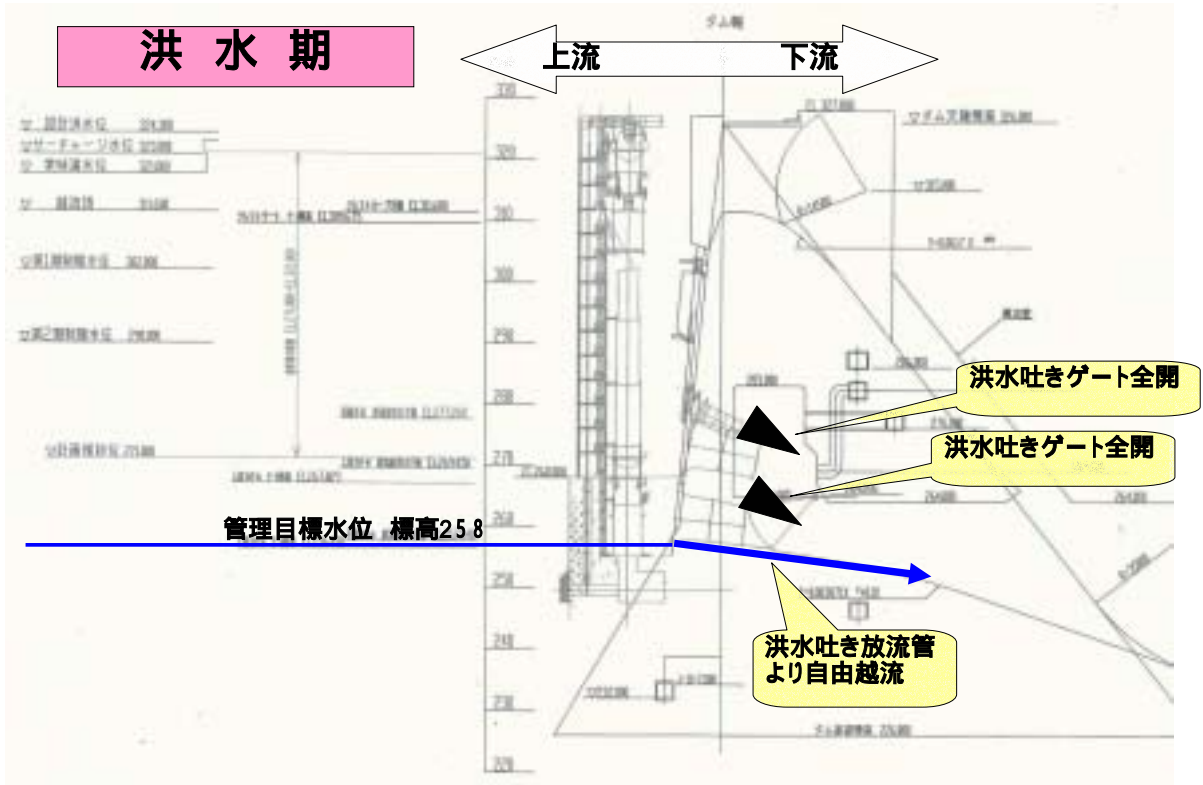
上段コンジットゲート
全開 閉鎖

下段コンジットゲート
全開 閉鎖

設備名	型式	寸法	設置位置
選取水設備	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	上流側
クレストゲート	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
上段コンジットゲート	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
下段コンジットゲート	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
計画水位維持放流設備	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
緊急利水設備	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央

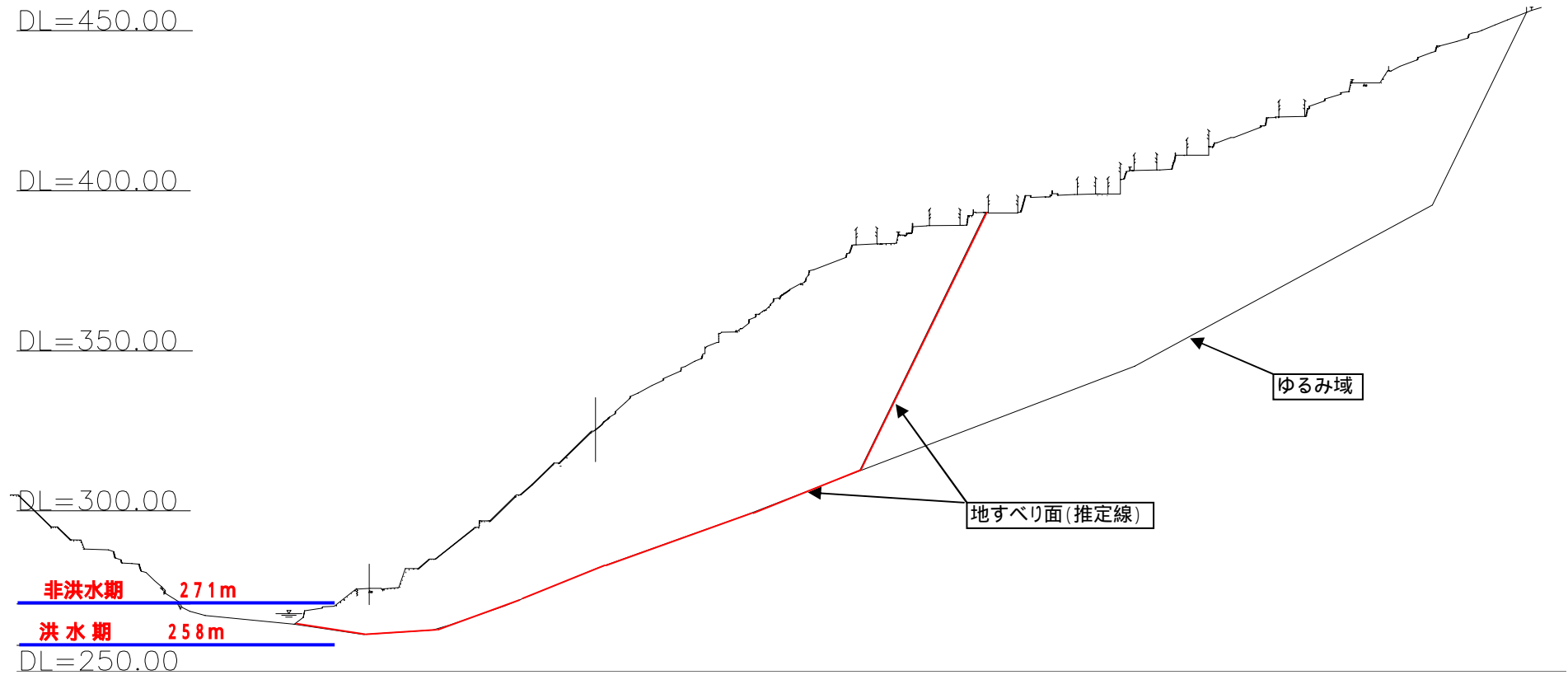
設備名	型式	寸法	設置位置
緊急利水設備	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
計画水位維持放流設備	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
下段コンジットゲート	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
上段コンジットゲート	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
クレストゲート	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	中央
選取水設備	バレーゲート	幅12.0m × 高さ1.2m	上流側

大滝ダム断面図



白屋地区断面図(水位上昇の影響)

白屋地区



非洪水期は標高258mから標高271mへ貯水位を約13m上昇させる。
白屋地区の河床高は標高265mなので、現在の河床から水面が約6m上昇する。